



中学校生活の思い出となった ユニセフ協会訪問とユニセフ学習

報告者 京都府亀岡市立亀岡中学校 八木 三鶴先生

ポイント

2010年という新しい年を迎える、子どもたちは、それぞれの進路実現に向けて、中学校生活最後の3学期を仲間と共に過ごしています。

その3年生の思い出の中でも修学旅行で日本ユニセフ協会を訪問し、実際にお話を聞かせていただいたことで、世界を少しでも身近に感じ、世界の様々な人々が生きていることを、生徒たちに学ばせていただきました。そして、今回の体験は、事後の学習に有意義なものとして充実した活動が展開されました。そうした意義ある活動を支えて、本校生徒会の中にある国際交流委員会の継続した活動の積み上げがあげられます。

実践

1. 世界の現状を見つめ自分たちのことを考える国際交流委員会の活動

亀岡中学校では、生徒会の国際交流委員会を中心に平和について考え、できることから活動しています。国際交流委員会では、一人でも多くの人たちに世界で起こっている様々な現状を知ってもらうことを大切にとらえ、自分たちにどんなことができるかということを考えてほしいと提言しています。今年度の活動としては、

ア. カンボジアへ文房具を送る

1学期は、カンボジアへ送る文房具の回収のキャンペーンをしました。

イ. 地雷廃絶キャンペーン

2学期は、地雷廃絶キャンペーンを、PTAの方々の支援もいただきながら実施しました。

ウ. ストリートチルドレンを支援

3学期は、書き損じ葉書の回収を行い、2月には、生徒会本部と共に、ストリートチルドレンなどへの支援をするため街頭で募金活動をしました。

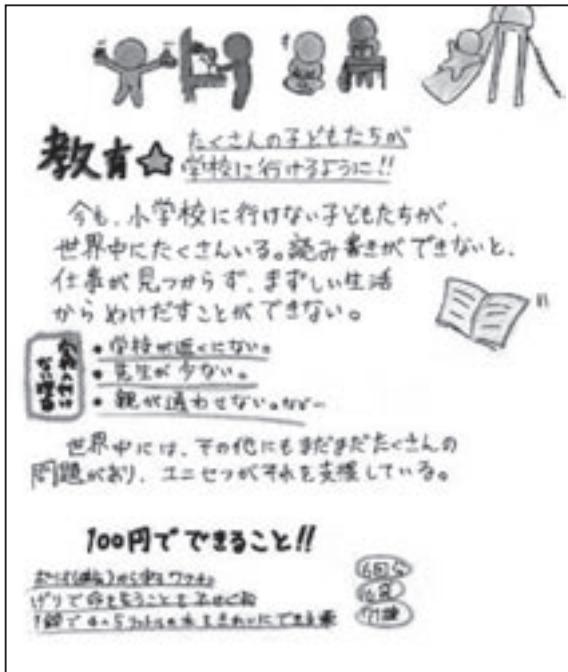


街頭での募金活動

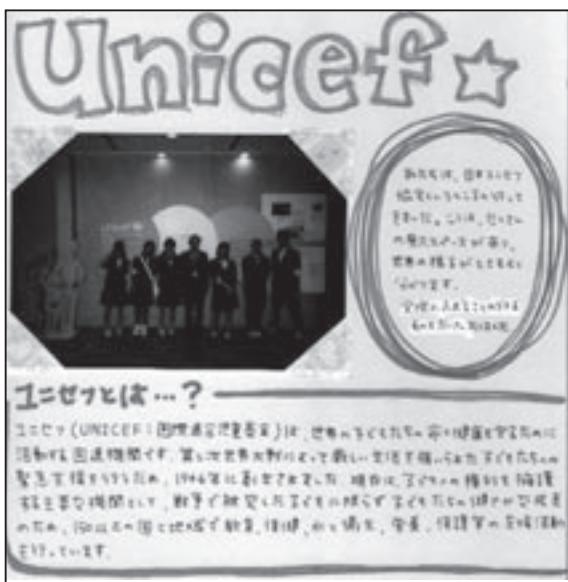
2. ユニセフ訪問後の活動

生徒会の国際交流委員会は、世界で起こっている様々な現状について知り、自分たちに何ができるかということを考える機会となっています。そのような学習を生かすと同時に、ユニセフ訪問の事後学習と見学したことの整理しまとめたため、ポートフォリオの作成を通して、今回の学習を更に意義あるものにすることことができました。

〔まとめ1. (一部)〕



〔まとめ2. (一部)〕



成 果

日本ユニセフ協会を見学した生徒たちの感想の中には、「平和への思いを新たにした。」「今、自分に何ができるかを考えた。」など訪問をさせていただいたことが大変貴重な体験となりました。充実した体験をさらに思い出にするため、卒業する生徒への〔卒業メッセージ〕を日本ユニセフ協会にお願いしました。届けられたメッセージは、学校内に掲示し、卒業式当日には、式場にも掲示をして広く保護者の方々にも見ていただきました。日本ユニセフ協会からいただいたメッセージには、「世界の子供たちに温かい気持ちを自分でできることを みんなでできることを」という言葉が書かれていました。

これからも生徒たちと共に、自分に何ができるのか、私たちに何ができるのかを考え、行動していきたいと思います。そのためには、世界で起きている様々なことに目を向け、現状を「知る」ことも大切なことです。学校教育のあらゆる機会をとらえて、「知り」、「考え」、実践につないでく活動にしていきたいです。

〔感想〕 あらためて、日本は世界の中でも豊かな国だと思った。他の国では、1日にたくさんの人が死んでしまう。その死んでしまうことは、予防できる病気もあるし、私たちができることは、協力して世界が平和になるといいなと思った。

〔感想〕 今回日本ユニセフ協会に行かせていただいて、映像で見るととても悲しくなりました。そして、体験コーナーでいろいろ実際に持ったりしてみて、とても「関係ない」とは思えませんでした。だから、私は少しでも協力できればいいなと思いました。